

# 第1B (小) 分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 重点目標の具現化に向けての教頭としてのかかわり

司会者	国東市立国東小学校	井手 俊 郎
提言者	国東市立竹田津小学校	滝 口 俊 也
助言者	大分県教育庁人権・同和教育課人権教育推進班主幹 (総括)	
		永 井 弘
記録者	国東市立富来小学校	丸 尾 修

## 1 協議の柱

- ・学校教育目標 (重点目標) の具現化に向け、重点取組 (学力向上) 推進のため教頭としてどうかかわればよいか。

## 2 協議の実際

### (1) 質疑

- ・ (質問) 「総合的な学習の中で国語・算数の活用力を高める問題作りに取り組む。」とありますが、具体的にはどのような問題ですか。  
(回答) 例えば、近くにスオーナダフェリーの営業所があるので、時刻表を見て片道山口へ行くのにどれくらい時間がかかるのかな、等。総合的な学習に関連した問題を作る。
- ・ (質問) ノーテレビ・ノーゲームに取り組むとありますが、レベルを教えてください。  
(回答) レベルは1～5まであります。レベル1は時間を決めて。レベル5は見ない。学年ごとにレベルを決めて、全校でレベル3を目指している。

### (2) グループ別協議の報告

- ・ (Dグループ) 学力向上について意見が多くでた。教師の意識を変える。調査して低い点は、チームで具体的方法を考え、小テスト等で取り組む。教師が授業を振り返る。
- ・ (Eグループ) ノーテレビ・ノーゲーム等細かく取り組んでいるのが良い。宇佐ではノーメディアデーでスマホ携帯をしない日を作っている。1日90分年間で授業時間を超える。学力が低い児童で、家庭的や経済的に厳しい場合、その子がつぶされることがある。
- ・ (Fグループ) ある学校で、校長のリーダーシップで学力向上に取り組んだが、一年目は教師・保護者からの反発があった。二年目は運営委員会で調節して行った。教科の差。取組指標をしぼる。プロジェクト会議は、どれかに入る利点もあるが負担もあるのでは。目標協働達成モデル校は、小学校で取り組み、中学校で定着 (継続) するほうがよいのでは。

## 3 指導助言

- ・ 少人数だから不利な点もあるが、少人数だからできることもある。～個人カルテ等。
- ・ 学力テスト等の分析・集計は、担任が自分自身で集計する方が主体性を持つことができる。
- ・ 教育課程 (生活指導・体育的行事等の年間指導計画) を利用して、会議を進め、加除・修正を加え、来年度に生かす。総合的な学習の実践や得た資料 (竹田津フェリーの時刻表の実践等) は、教育課程の中に残していくと、財産になる。
- ・ 前年度作成した教育課程をいかに活用していくかが課題。(学校の負担軽減からも)
- ・ 目標協働達成で「あいさつ」等について、家庭・学校・地域で協働してやっていくことが大切である。
- ・ 人権教育、スクール・セクシュアル・ハラスメント防止、相談体制等を教育課程や校務分掌にも位置付けているはずなので、運用体制ができていくかこの機会に確認して欲しい。